

事項一一 極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業問題

二九四 二月四日

在ニコラエウスク山口領事館事務代理ヨリ
牧野外務大臣宛

「カムチャツカ」州ニ魚類養殖場建設ノ件

附記 大正二年十二月二十三日附在ニコラエウスク山

口領事館事務代理ヨリ牧野外務大臣宛公第一一
二号

魚類養殖ニ関スル露国政府ノ施設ニ関スル件

公信第一四号

(二月二十日接受)

大正三年二月四日

在ニコラエウスク

領事館事務代理 山口為太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

露曆本年一月十四日發刊「プリアムールスカヤ、ジスニ」
新聞ニ掲載スルトコロニヨレハ「デムビー」及「ビリチ」
商会ハ「ウスチ、カムチャツトカ」漁業区ニ魚類養殖場建
設ノ契約ヲ堪察加州知事ト締結セリ該養殖場ハ今春ヨリ建
設ニ着手シ養殖場主任トシテ諾威国ヨリ専門家ヲ招聘スヘ

ク目下其ノ交渉中ナリ露国ニハ斯業ノ専門家ナキニヨリ商
工務省ノ許可ヲ得テ外国人ノ専門家ヲ招聘スルトコトナレ
リ該養殖場ハ極東唯一ノモノタルヘク該商会ハ契約ニヨリ
千九百十五年マテニ養殖場ノ建設ヲ終了シ同年ニハ幼魚五
十万尾次年ヨリハ毎年三百万尾宛放養スル義務アリ
右及報告候 敬具

(附記)

公信第一一二号

(大正三年一月十二日接受)

大正二年十二月二十三日

在ニコラエウスク

領事館事務代理外務書記生 山口為太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

魚類養殖ニ関スル露国政府ノ施設ニ関スル件

露曆本月三日發刊沿黒竜江總督府報ニ掲載スルトコロニヨ
レハ魚類養殖業発達ニ関スル政府ノ一般計劃案ヲ編成スル
カ為メ去月十六日農務省ニ於テ協議会開催セラレ養魚専門

ノ農務局員ノ外養魚業会社代表者地方農業技師養魚教師並
ニ養魚界ノ活動者タル若干私人之ニ参与シタル筈ニシテ該
會業務ノ項目中ニハ左ノ問題ヲ包含スル趣ニ候

第一 國家ノ費用ヲ以テ実施スヘキ養魚問題

一、産業の魚類ナル地方魚族ノ人工孵化ヲ行ヒ其ノ稚魚
ヲ河海ニ多数放流シ以テ河海ノ生産力ヲ維持スルコト
新魚族ヲ風土ニ慣レシムルコト

二、公衆用湖水ニ魚類ヲ移植スルコト

三、官有池湖ノ利用問題ト關聯シ之ニ魚類ヲ移植スルコ
ト

第二、養魚業ニ関スル私人ノ企業ヲ保護スベキ施設

一、地方養魚業ノ利益ヲ計ルカ為メ各地ニ養魚事務ヲ取
扱フ官設機關ヲ置キ該機關ノ基礎及其事務ノ範圍(機
関ノ定員並ニ必要ナル機關附屬ノ營造物即養魚試驗
場、養殖場、情報所、養魚業ニ関スル巡回講習所及講
演會)ヲ定ムルコト

二、養魚業ノ需用ニ応スヘキ興業資金ノ貸与

池沼ニ於ケル産業經營ノ為メ借入金ヲ請願スル場合ニ
該産業ノ設計ヲ審議認許スルノ手續

一一 極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業問題 二九五

三、現時ノ狀態ニ於テ養魚業ノ發達事務ニ関スル地方自
治体及公共団体ノ職分農務局ト前記自治体及団体トノ
相互の關係

第三 地方別ニヨル養魚業発達ノ要件

斯業現時ノ狀態並ニ必要事項

各地方ニ於テ緊急実行ヲ要スル施設

右施設ニ必要ナル經費

第四 養魚技術員ノ養成

一、養魚技師、養魚教師、水利技師、養魚専門家、右各

自業務ノ範圍、教育程度、専門智識

二、農業学校ニ於ケル養魚科ノ設置

右為御参考及報告候 敬具

二九五 三月二日

在浦潮坪上總領事代理ヨリ
坂田外務省通商局長宛

中瀬捨太郎ガ明治四十三年租借ノ沿海州漁場
ニ輸入セル漁業用品ニ関スル浦潮地方裁判所
ノ裁判ニ付斡旋ノ狀況報告ノ件

附記

大正二年十二月二十七日附坂田通商局長宛在浦
潮野村總領事宛公信通送第一七四号

三六一

中瀬ガ明治四十三年租借ノ沿海州漁場ニ輸入セ
ル漁業用品ニ関スル浦潮地方裁判所ノ裁判督促
方訓令ノ件

公第三〇号

(三月九日接受)

大正三年三月二日

在浦潮斯德

總領事代理 坪上貞二(印)

通商局長 坂田重次郎殿

中瀬捨太郎漁業用品差押ニ関スル裁判ニ関シ客年十二月二
十七日付通送第一七四号ヲ以テ御申越ノ次第致敬承候本件
ニ関シ当地地方裁判所当該検事ニ問合セ候処裁判所ニ於テ
ハ予審調書作成ノ上本件告訴者タル浦潮斯德税関監督官
「ラトキン」氏(元沿黒竜税関区長官)ノ意見ヲ徴センカ
タメ客年末関係書類全部ヲ同官ニ回付シタルニ同官ハ目下
露都税関局ニ稟請中ナルヲ以テ同局ノ決定ニヨリ裁判ニ附
スルヤ否ヤ判明スヘシトノコトニ有之候然ル処右監督官
「ラトキン」氏ハ先頃露都ニ赴キ今尚滞京中ニ付今回電報
ヲ以テ日露漁業協約第八条ノ漁業用物件ナル文字ノ解釈ニ
関シ一九一一年兩國政府間ニ成立シタル協定ノ精神ニ基キ

御取計相成度此段申進候也

(別紙)

中瀬捨太郎ガ明治四十三年租借ノ沿海州漁場ニ輸

出セル漁業用品ニ関スル浦潮地方裁判所ノ裁判ニ

付願出ノ件

拝復本月十七日付ノ御書面落掌拝読仕候御来意ノ趣承知左
ニ御回答申上候本年夏在「インペラトルスキ」警察署ヨリ小
生ニ対シ浦潮地方裁判所ニ出頭スベシトノ召喚ニ接シ候間
早速同地ニ渡航致シ野村領事ヲ経而小生ノ出浦セル旨同裁
判所ニ通知致候処裁判所ハ明治四十三年小生租借ノ漁場ニ
輸入セル漁業用品ニ付キ密輸入品ト誤認シ昨年以来小生ヲ
搜索シツツアリシ由ニテ直ニ予審判事ノ予審ヲ受ケ暫ク留
ノ供託金ヲ同裁判所ニ提供致候其際予審判事ノ曰ク如斯事
件ナラバ多分起訴トナルベキ性質ノモノニ非ラズトノ事ニ
テ殊ニ本事件ニ関シ小生ノ依頼セル弁護士「ブレオブラゼ
ンスキ」氏ノ如キハ日本大使ト露政府ト交渉ノ結果既ニ漁
業用品問題ノ解決ヲ告ゲ居ル事ナレバ多分本事件ハ不起訴
ト相成ベシトノ事ニ有之候右ノ次第ニテ予審判事ハ追而一
ヶ月以内ニ起訴不起訴ノ通知スベキニ依リ居所ヲ届置クベ

関税局長トモ会談ノ上中瀬ノ利益ニ解決スル様尽力アリタ
キ旨ヲ依頼シ同時ニ当地監督官代理ヘモ同様要請致置候間
右様御了承相成度此段報告申進候 敬具

追テ中瀬捨太郎ノ依頼ニカカル弁護士「ブレオブラゼン
スキ」ハ客年秋露都ニ移転シ本件事務ヲ「プロトボー
ポフ」弁護士ニ引継候右申添候

註 大正二年十二月二十七日坂田通商局長ヨリ在浦潮野村総
領事代理宛通送第一七四号ヲ次ニ附記ス

(附記)

大正二年十二月二十七日附坂田通商局長ヨリ在浦
潮野村総領事代理宛公信

中瀬ガ明治四十三年租借ノ沿海州漁場ニ輸入セル
漁業用品ニ関スル浦潮地方裁判所ノ裁判督促方訓
令ノ件

通送第一七四号

本件ニ関シ中瀬捨太郎ヨリ当省ヘ願出ノ義ハ曩ニ申進置候
次第有之候処今般本人自ラ本省ニ出頭重テ出願有之更ニ別
紙写ノ通り申出候間委細ハ右ニテ御了悉ノ上本人希望ノ通
リ速ニ裁判開廷事件結了相成候様当局者ノ注意喚起方可然

キ様下命致候ニ付漁場ニ帰来後及当函館ニ帰来シテモ居所
ヲ届置候然ルニ其後何等ノ通知無之果シテ本件ガ起訴トナ
リシカ否ヤスラ知ルニ由無ク又候漁場ニ於テ操業中突然召
喚ヲ受クルガ如キコトアリテハ其迷惑甚ダシク且ツ御承知
ノ如ク少ナカラザル旅費等ヲ要シ寧ロ一千留ヲ納付シ本件
ノ解決ヲ見ルニ如カズト考候依而小生ノ希望ノ要点ハ本件
ガ若シ起訴ト相成居ルモノトスレバ野村領事ニ裁判長ノ御
訪問ヲ願ヒ情状ヲ酌量シ至急裁判ノ進行ヲ促ガシ其判決ヲ
受ケ度モノニ有之候因ニ本事件ニ関スル一切ノ委任ハ在浦
弁護士「ブレオブラゼンスキ」氏ニ致置候又昨年押収セラ
レタル燐寸ノ件ハ露官吏ノ誤解ニ依リ押収シタルモノトス
レバ露政府ノ費用ニテ小生ノ漁場ニ送付スルカ然ラザレバ
勝手ニ処分アリタシト本年春野村領事ニ話置候多分競売ニ
附シタルコトト察居候先ハ右御回答迄如斯ニ御座候 拝具
十二月二十日

函館

中瀬捨太郎

鈴木陽之助様

局長ニモ宜敷御取成シ被下度候

二九六 三月二十八日 在浦潮坪上総領事代理ヨリ
坂田通商局長宛

中瀬捨太郎ガ沿海州漁場ニ輸入セル漁業用品
ニ関スル裁判ハ不起訴ニ決シ払戻供託金千留
ヲ露領水産組合副組長ニ交付シ置キタル旨報
告ノ件

公第四八号 (四月四日接受)

大正三年三月二十八日

在浦潮斯德

総領事代理 坪上貞二(印)

外務省通商局長 坂田重次郎殿

中瀬捨太郎漁業用品差押事件裁判ニ関スル件

本件ニ関シテハ本月二日付公第三〇号ヲ以テ一応報告致置
候処其後数次当地税関監督官代理並ニ地方裁判所検事ト会
談致候処両官ニ於テハ中瀬捨太郎ヲ起訴セサルコトニ決定
シタルヲ以テ予テ中瀬ヨリ当地支金庫ニ供託シアリタル保
釈金千留払戻方ニ関スル通知書今般当地地方裁判所長ヨ
リ当館ニ送付致越候ニ付当館ニ於テ右支金庫ヨリ現金ヲ受
領シ目下当地滞在中ナル露領水産組合副組長稲川竹治ニ交

「オホック」「カムチャッカ」沿岸ニ於ケル

露国人漁業発展策ニ関スル浦潮商工会議所意

見書訳報ノ件

附屬書 右意見書訳文

公第七三号 (五月四日接受)

大正三年四月十六日

在浦潮斯德

総領事代理 野村基信(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

「オホック」堪察加沿岸ニ於ケル露国人漁業発展策ニ関シ
今般当地商業會議所ニ於テ意見ヲ発表致候処右ニ依レハ漁
業ハ極東露領ニ於ケル最モ有望ナル富源ノ一ナルヲ以テ露
国政府ハ同地方ノ経済状態ヲ強固ナラシムル為メ鋭意之カ
開発ニ努メサルヘカラスト説キ「オホック」堪察加沿岸ニ
於ケル日本人ノ勢力ヲ可成縮小セシメ以テ露国人ヲシテ之
ニ代ハラシムルノ急務ナルヲ述ヘ続テ現今「オホック」堪
察加沿岸方面ノ航路ヲ経営シツ、アル義勇艦隊ノ漁業者ニ
対スル専横將又之ニ対スル政府ノ措置カ当ヲ得サルコト等
ヲ一々指摘スル所アリ更ニ日露漁業者ノ交通、通信及漁区

付シ同人ヨリ更ニ中瀬ニ転交方取計置候間右様御了承相成
度此段申進候 敬具

二九七 四月九日 坂田通商局長ヨリ
北海道函館支庁長宛

中瀬捨太郎沿海州漁場ニ輸入ノ漁業用品ニ関
スル裁判不起訴決定ニ付右本人ヘ示達方依頼
ノ件

通送第一六五五号

本件ニ関シ客年一月二十九日附送第四三五号ヲ以テ申進置
候次第有之候処其後中瀬捨太郎ヨリ直接当省ヘ願出ノ義有
之候ニ付本人希望ノ通り速ニ裁判開廷事件結了候様当局者
ノ注意喚起方在浦潮総領事代理ヘ訓達方取計置候処今般同
総領事代理ヨリ別紙写ノ通り報告有之候条右ノ趣至急本人
ヘ示達方可然御取計相成度此段申進候也

註 別紙ヘ前出三月二十八日附浦潮来信公第四八号写ナリ省
略ス

二九八 四月十六日 在浦潮野村総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

経営上ノ便否並ニ経費等ヲ對比シテ到底露国人对日本人競
争ノ不可能ナル所以ヲ説キ終リニ此際露国人漁業ノ発展策
トシテ露国漁業者ニ外国船傭入ヲ許可スルコト、漁場行汽
船ニ保護金ヲ交付スルコト、漁業者ニ国立銀行ヨリ低利資
金貸出ノ便ヲ与フルコト及ヒ浦潮斯德「ニコラエウスク」
両市ニ漁業学校ヲ設クルコト等ヲ列挙致居候右ハ現今露国
人側一般ヲ代表セル意見トシテ大ニ注意ノ価値可有之ト存
候ニ付為御参考別紙ヲ以テ及訳報候 敬具

(附屬書)

「オホック」堪察加沿岸ニ於ケル露国人漁業発展

ニ関スル浦潮斯德商業會議所意見書訳文

沿黒竜江地方ニ急速移民ノ増殖ヲ図リ以テ同地方ノ経済的
発展ヲ期セントセハ須ク漁業、林業、鉱業ノ如キ主要ノ産
業ヲ開発セサルヘカラスト元来当地方経済界ノ現状ハ主トシ
テ陸軍其他各官庁ノ消費スル経費ニ依テ支配セラレツツア
リ然レトモ斯ノ如キ経費ハ遠カラス黒竜江鉄道ノ完成又ハ
各種官衙工事ノ充実スルニ伴ヒ激減スルハ固ヨリ言ヲ俟タ
ス茲ニ於テカ政府当局者ハ地方ノ経済状態ヲ強固ナラシメ
ンカ為メ確乎タル富源ノ開発ニ努メサルヘカラスト此時ニ方

リ吾人ハ漁業カ最モ有望ナル富源タルト同時ニ最モ国家的
価値ヲ有スル産業ノ一タルヲ断言シテ憚ラサルナリ
「オホック」堪察加沿岸ノ漁業ヲ發達セシムルノ要ハ前記
理由ノ外又他ニ一ノ目的アリ曩年日本人カ「ボーツマス」
条約ニ依リ獲得セル經濟上ノ利益ヲ可成縮少セシムルコト
即チ是ナリ見ヨ同条約ニ依リ日本人ハ「オホック」堪察加
沿岸ノ漁業經營上實際露国人ヨリモ一層廣大ナル特權ヲ有
シ又經濟的關係ヨリ見ルモ遙ニ有利ノ状態ニ在ルニアラス
ヤ故ニ政府ハ眼ヲ大局ニ注キ我政治經濟上ノ競争者タル日
本人ノ有スル特權ヲ充分ニ利用セサシメンカ為メ之ヲ考
究スル所アラサルヘカラス然ルニ現今我政府ノ漁業ニ對ス
ル措置ハ決シテ此ノ目的ヲ達スルコト能ハス現ニ沿岸航行
ヲ外國船ニ禁止シテ以來義勇艦隊ノミ其独占權ヲ振フニ至
リ我漁業者ハ運賃ノ低廉ナル船舶ヲ利用スルコト全然不可
能トナレリ同艦隊ハ政府トノ契約ニ基キ所定ノ汽船數ヲ以
テ所定ノ航行ヲ遂ケツツアリト雖モ吾人ハ現在ノ汽船數ニ
テハ尚ホ未タ大ニ不足ナリト信ス右契約第三条ニ「義勇艦
隊ハ北海ノ航行ニ適シ且ツ千噸以上ノ載貨力ヲ有スル汽船
四隻以上ヲ以テ航路ヲ經營スル義務アリ但シ各汽船共一二

等客室計二十以上、三等客室百以上ヲ備フルコトヲ要ス」ト
アリ義勇艦隊ハ右ノ契約アルニ拘ハラス其汽船隻數ヲ倍加
セリ然レトモ漁業者ノ需要ヲ充スニハ尚ホ未タ充分ナリト
云フヘカラス現ニ千九百十三年ノ如キ同艦隊ハ漁業者ノ輸
送セントスル諸貨物及労働者ヲ悉ク引受クルコト能ハサル
為メ不得已其一部ヲ拒絶セリ其結果漁業者ハ別ニ輸送機關
ヲ有セサルヲ以テ多大ノ損害ヲ蒙レリ而モ義勇艦隊所有船
舶ハ現在ニ於テ少數ナル為メ同艦隊ハ勢ヒ其航路ヲ多ク迂
回航路ヲラシメサルヘカラス從テ汽船ノ浦潮斯德出港ニ際
シテハ其載貨ノ三分ノ二ハ石炭ト淡水トニ奪ハレ而シテ主
要ノ貨物ハ僅ニ三分ノ一ニ過キス又長距離ノ迂回航路ニ依
ルノ外他ニ輸送機關備ハラサルヲ以テ多數漁業者ハ已ムヲ
得ス漁季ヨリ一ヶ月半前ニ労働者其他漁業用品ヲ漁場ニ送
リ又魚貨ハ漁季終了ヨリ一ヶ月後ニ搬出セサルヘカラス其
結果漁業者ハ途中労働者ノ往復滞在日數二ヶ月半ニ對シ全
然不用ノ支給ヲ為ササル可カラス（往復途中ノ労働者給料
ハ普通給料ノ半額）又一方ニ労働者モ其長距離旅行ノ為メ
無聊ノ余リ誘惑ニ陥リ遂ニハ稼賃ノ一部ヲ濫費スルニ至ル、
漁業者自身亦汽船ノ航行日數久シキニ亘ルヲ以テ特ニ製魚

上ニ注意ヲ払ヒ食塩ノ分量ヲ加減スルカ故ニ其歐露市場ニ
於ケル相場ハ他地方産薄塩漬ニ比シ著シク低廉トナルナリ、
サレハ多數ノ漁業者カ日本式製魚ヲナス亦実ニ已ムヲ得サ
ルナリ次ニ義勇艦隊ハ政府トノ契約書第三条但書ニ基キ五
百布度以上ノ載貨力ヲ有スル三羽船三艘以上ヲ汽船ニ積込
ミ居ルト雖モ實際ニ於テハ漁業者ニ充分ノ満足ヲ与ヘ居ラ
ス右ノ三羽船ハ固ヨリ鉄材又ハ石材ノ如キ重量アル物品ハ
事實五百布度ヲ積込シ得ルモ容積ノ大ナル樽漬製魚ノ如キ
ハ三十布度入五個乃至八個即チ百五十布度乃至三百五十布
度ヲ積込シ得ルニ過キス斯ノ如キ有様ナルヲ以テ漁業者ニ
於テ若シ自己ノ三羽船ヲ以テ樽漬魚類ヲ汽船ニ積込マン
トセハ義勇艦隊ハ小蒸汽使用料トシテ普通ノ料金以上即チ一
布度ニ付三哥半ヲ徴収ス、同艦隊ニ於テ貨物ノ揚卸ヲ一切
引受ケ行フトキハ一布度ニ付揚、卸賃金各二哥半、小蒸汽
使用料二哥半、三羽船使用料二哥半、陸上荷役賃二哥半ナ
リ（陸上荷役賃ハ不当徴収ナリ、何トナレハ實際陸上ニハ
一人ノ労働者ヲ使役セサレハナリ、又使役セントスルモ船
内労働者數ハ合計十七人ニ過キサレハ陸上荷役ニ使役シ得
ヘキ余裕ナシ）尚右費用ノ外製魚陸揚ノ場合ニハ通關手數

料トシテ四分ノ一哥ヲ徴収ス斯ノ如ク運賃外ノ費用ト雖モ
亦決シテ僅少ナリト云フヘカラス斯ノ如ク過分ノ料金ヲ徴
収シツツアルヲ以テ義勇艦隊ハ常ニ充分ノ荷役機關ヲ備ヘ
居ルコソ当然ナルヘキニ實際ニ於テハ往々然ラサルモノア
リ例ヘハ昨年「シーシャンプー」号ノ備付ケタル三羽船ノ
如キハ浦潮斯德出港ノ際既ニ一艘ハ全ク實用ニ適セス一艘
ハ第二ノ寄航漁場ヨリ海水ノ浸入甚シク又他ノ一艘ハ「オ
パラ」附近ニ於テ海中ニ吹飛ハサレタリ故ニ漁場ニ於ケル
荷役ハ凡テ漁業者ノ材料ニ依テ行ハレタリ右ノ如キ状態ヲ
常ニ繰リ返シツ、アルニ係ハラス荷役賃ハ依然トシテ引下
ケラルコトナク若シ又運賃先払トセハ更ニ普通ノ運賃ヨ
リ二割方高価ナリ今各種ノ費用ヲ合算セハ堪察加産魚類ノ
運賃ハ一布度ニ付二十八乃至三十哥ヲ要スル勘定ナリ

次ニ義勇艦隊汽船航路ニ就キ一言センニ元來同航路表ハ漁
業者ヲモ参加セシメタル上編製セラル、モノナルカ其意畢
竟彼等ノ利益ヲ尊重シテ汽船ヲシテ魚類群來期前ニ各漁場
ニ寄航セシメントスルニアリ若シ同表編製ニ漁業者ノ参加
スルナクンハ彼等ハ漁季ヲ逸シ多大ノ損失ヲ蒙ムルヘク又
義勇艦隊ニ於テモ秋季ノ積荷ヲ失フコト明ナリ然レトモ義

勇艦隊ハ漁業者ノ希望ヲ充スノ外尚ホ行政官庁ノ意見ヲモ亦尊重セサルヘカラス故ニ同艦隊ハ往々漁業者ノ利益ヲ度外視シテ航路表ヲ編製スルノ已ムヲ得サルニ至ルコトアリ例ヘハ一昨年ノ如キ堪察加州知事ノ希望ニ依リ第七回航路ハ最初ノ予定ヲ変更シテ之ニ「ペトロパウロフスク」ヲ加ヘシメラレタルヨリ同航路汽船ハ変更前ノ第一寄航地ニハ十日間ヲ遅レテ到着セリ其結果二百名ノ旅客労働者ハ各運賃(運数ニ依リ計算ス)八留乃至二十四留ト又十日間ニ対スル食料五留及至二十留トヲ予算外ニ支出シ又「チャウヤ」「ナヤハン」間ノ漁業者ハ悉ク第一回ノ漁期ヲ逸シ又汽船側ニ於テモ十日間ニ対スル無用ノ航海費用五千留ヲ消費セリ右航路表変更ノ理由ハ貨物七千布度、煉瓦八千個ヲ「ペトロパウロフスク」ヨリ積取ラシメンカ為メニシテ之ヨリ得タル汽船ノ運賃ハ僅々約七百五十留ニ止マレリ秋季ニ至リ同航路汽船ト同一汽船ハ電信材料輸送ノ為メ再ヒ予定ノ航路ヲ変更セシメラレ「オホツク」「ナヤハン」兩地ニ寄航シタレハ又予定日数外ニ十日間ヲ費セリ斯ノ如クシテ汽船力「チャウヤ」ニ着シタル頃ハ既ニ淡水ノ欠乏ヲ来シタレハ遂ニ同地ニ在リタル魚貨ノ一部ヲ残置スルニ至レリ前

ニ勵行セラレ現ニ「ペトロウロフスク」郵便電信局長ノ如キハ浦潮斯德ニ於ケル某堪察加漁業者ノ事務所ニ前記ノ電話使用料五十留ヲ当該官庁ニ納付スヘキ旨ノ電話取次スヲ拒絶セリ更ニ吾人ハ堪察加ニ於テ労働者三十人ヲ使用シ魚類六万尾ノ収獲アル日露兩國人経営ノ中漁場ニ要スル經費ヲ掲ケ以テ彼我漁業者ノ競争ノ到底不可能ナル所以ヲ説明スヘシ

露国人ノ漁場経営費

労働者三十人ニ対スル五ヶ月間ノ給料	六、〇〇〇留
一人ニ付四十留ノ割	
労働者三十人ノ漁場往復運賃	五一九ク
一人ニ付十七留三十哥ノ割	
漁業用品及糧食二千布度ノ運賃	四〇〇ク
食塩千八百呎(五千四百布度)ノ運賃	
一布度ニ付十七哥ノ割	八一〇ク
製魚九千百七十五布度ノ運賃	
一布度ニ付二十八哥ノ割	二、五六九ク
製魚九千百七十五布度ノ通関手数料	四五九ク
漁区租借料	七四ク

記ノ事例ハ義勇艦隊カ前記方面漁業上ノ運輸機関タル間到底漁業ノ健全ナル發達ヲ望ム能ハサルコトヲ証シテ余リアリ故ニ吾人ハ我漁業者カ現時ノ如キ危険状態ニ在ル間日本人ノ如ク我漁業ヲシテ貿易の価値ヲ有セシムルニ至ルコト到底不可能ナリト信ス今吾人カ露国漁業ノ危険状態ト称スヘキ数点ヲ挙クレハ(一)漁季前ニ労働者ト漁業用品トヲ漁場ニ送致シ得サルコト(二)製魚ノ搬出不可能ナルコト(三)労働者ニ余分ノ給料ヲ支払ハサルヘカラサルコト、其他現今多クノ漁場ニハ汽船ノ寄港僅ニ二回ニ過キサレハ漁季中大漁アル場合食塩樽等ヲ追送スルコト能ハサルコト、又ハ同盟罷工ノ漁夫雇替ヲ断行シ得サル事情アルコト等トス
次ニ一年以前ヨリ堪察加沿岸ニ電線架設セラレタルモ電信係員ノ不在又ハ其他故障ノ為メ往々実用ニ適セサルコト多キヲ以テ出漁者ハ漁場到着後漁季終了マテ全然別世界ニ在ルノ觀アリ其甚シキ实例ハ是迄「ペトロパウロフスク」附近ノ漁業者ハ同地漁場間ノ電話ヲ利用シテ浦潮斯德ニ打電方ヲ依頼シ来リタルカ昨年漁季最中ニ当リ突然上級官庁ノ命令ニ依リ電話使用料五十留ヲ納付セサレハ一切漁業者ノ依頼ニ応スルコト能ハサルコト、ナレリ此命令ハ最モ嚴格

製魚売買手数料

食塩千八百呎ノ代価 一呎ニ付一留三十哥ノ割

漁網代価	二、三四〇ク
小舟代価	七〇〇ク
三羽船代価	一〇〇ク
同附属品代価	六〇〇ク
其他雜品代価	一〇〇ク
合計	一〇〇ク

一五、三九七留

露国人ノ漁場経営費ヲ表示スルト同時ニ吾人ノ茲ニ附記シ置カサルヘカラサルハ極東ニ於テ經驗アル魚類及魚卵製造者ノ欠乏セルコト是レナリ多少經驗アル者ハ多ク漁場附近ニ移住シテ独力漁場ヲ經營シ居ルカ故ニ漁業者ノ雇入レ得ル労働者ハ飲酒癖アル無頼漢ニアラサレハ或ハ又全然無經驗ノ徒ナリ又漁業学校ナルモノノ設ケナキカ故ニ經驗アル指導者ハ一年ト欠乏ヲ来シ又一方ニ於テ漁業資金ノ融通ヲ計ル信用機關完備シ居ラサル為メ漁業者ハ漁区經營上益々苦痛ヲ感シツアリ更ニ吾国ニ於テハ漁業用船舶皆無ナルモ日本ニ於テハ遠洋漁業用ノ船舶無数ナリ見ヨ千九百十

一、極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業問題 二九八

年ノ調査ニ依レハ日本型帆船七千三百二隻、漁業専用汽船四十九隻、西洋型帆船三百九十六隻ヲ算セリ此等漁業用船舶ノ外同国ニハ尚ホ多数ノ商船アルヲ以テ日本漁業者ハ自由ニ其欲スル船舶ヲ傭入ルルコトヲ得ルト同時ニ又傭船賃低廉ナルヲ以テ小資本ノ漁業者ト雖モ数人共同シテ傭船シ得ル便宜アリ斯ノ如キ有様ナレハ日本船舶ニ対シ如何ニ共同回航ヲ禁スト雖モ彼等ハ現ニ表面一人ノ名義ヲ以テ多数ノ隣接漁区ヲ競落シ後之ヲ数人ニ譲渡シツアレハ實際何等ノ効果ナシ目下九渥ノ速力ヲ有シ一昼夜ノ石炭使用量十五噸乃至二十噸ノ日本中型汽船(約一、五〇〇噸)ノ傭船料ハ一昼夜約二百留ナリ斯ノ如キ汽船ヲ函館、堪察加間往復三十日間(内航海日数ヲ二十日間トシ碇泊日数ヲ十日間ト見做シ)傭船スルトセハ其概算費用左ノ如シ

三十日間ノ傭船賃 一昼夜二百留ト見做ス 六、〇〇〇留
航海日数二十日間ニ消費スル石炭代 二、四〇〇留

碇泊日数十日間ニ消費スル石炭代 二、四〇〇留
一昼夜ニ二十噸ヲ消費シ
噸ノ傭ヲ六留ト見做ス

一昼夜ニ二十噸ヲ消費スル
モノト見做ス価同様
雜費(余分ニ見積リ) 六〇〇留
五〇〇留

計

三七〇
九、五〇〇留

右ノ如キ汽船ハ貨物九万布度ヲ積載シ得ルカ故ニ一布度ノ運賃ハ約十留ニ相当ス、若シ又全費用ヲ船主持トシテ日本汽船ヲ傭船セハ大約左ノ如シ(千九百十一年)

五百屯ノ汽船 一昼夜ニ付 一七五留乃至二〇〇留
二千屯ノ汽船 同 二七五留乃至三〇〇留
二千三百三十屯ノ汽船 一昼夜ニ付 三二〇留

右ハ日極メノ傭船賃ヲ示セルモノナルカ若シ月極メヲ以テ傭入ルルトセハ前記金額ヨリ一割方ノ割引アルハ賄易キコトナリ若シ又予メ三月頃ヨリ一漁季間傭ヒ切ルトセハ更ニ前記金額ヨリ三割方ノ割引アルハ云フマテモナシ斯ノ如ク日本漁業者ノ堪察加、函館間魚類運賃ハ露国漁業者ノ堪察加、浦潮斯德間ノ夫レニ比シ三分ノ一ニ過キス、又日本漁業者ノ労働者運賃ハ距離ノ遠近ニ係ラス是迄ノ慣例ニテ函館漁場間一人ニ付約三円ナレハ是亦露国漁業者ノ浦潮斯德、堪察加間運賃ニ比シ約三分ノ一ナリ其他日本漁業者ハ労働賃銀ニ於テモ亦有利ノ状態ニ在リ即チ一漁季間漁夫一人ニ要スル費用ハ給料五〇留、給養費三九留九一(賞与金)一七留計僅ニ百留ヲ出テス加之日本漁業者無形上ノ便利ハ其

使役スル労働者カ生来漁夫、水夫等ニ適セルト又露国ニ於ケル如ク傭入ニ何等ノ面倒ナキコトトス
日本漁業者ノ漁区經營上有利ノ状態ニ在ルコト大要前述ノ如シ、サレハ彼等カ六万尾ノ収獲アル堪察加沿岸漁区經營費ハ左記金額ニ止ルヘシ

一漁季間漁夫三十人ノ給料

一人ニ付五〇留ト見做ス

九一(賞与金)百石ニ付五留ト見做ス

五ヶ月間帆船傭入賃

一ヶ月五百留ト見做ス

一漁季間漁夫三十人ノ給養費

一人ニ付三九留ト見做ス

漁夫三十人ニ対スル旅券費用

一人ニ付三留五〇留ト見做ス

漁区租借料

漁網及三羽船代(露国人ト同様)

食塩一、八〇〇噸ノ代価

一噸ニ付一留三〇留ト見做ス

合計

一〇、七八五留

一、極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業問題 二九八

露国漁業者

一、露国人ノ漁業用船舶數ハ発動機付帆船四隻汽船三隻

二、露国ニ於テハ傭船シ得ル汽船皆無ナリ又現時ノ漁業状態ニテハ規定ノ補助金ヲ受ケテ汽船ヲ購入スルモ結局不利益ナリ

三、露国漁業者ハ義勇艦隊ノ定期船以外傭船シ得サルカ故ニ適時ニ漁業用品ヲ漁場ニ追送スルコト能ハス又往々漁季ヲ逸シ或ハ製魚ヲ漁場ニ残置スルノ已ムヲ得サルコトアリ

日本漁業者

一、日本漁業者ノ漁業用船舶數ハ日本型帆船七、三〇二隻、西洋型帆船三九六隻、汽船四九隻

二、日本ニ於テハ汽船ノ傭入自由ニシテ又船舶業者ノ競争熾ナレハ月極メタルト將又漁季極メタルトヲ問ハス有利ニ傭船スルコトヲ得

三、日本漁業者ハ帆船又ハ汽船ヲ有スルカ故ニ常ニ漁場函館間ニ往復スルノ便アリ其結果製魚ヲ已ムヲ得ス漁場ニ残置スルカ如キ慮ナシ

四、露国漁業者ノ漁業用品 運搬費ハ二八哥乃至三五 哥ヲ要ス	四、日本漁業者ノ同運搬費 ハ十哥ヲ超エス
五、露国労働者運賃ハ浦潮 斯德漁場間往復一人ニ付 一七留五〇哥	五、日本労働者運賃ハ函館 漁場間往復約六留
六、露国労働者一漁季間ノ 給養費ハ二〇〇留	六、日本労働者一漁季間ノ 給養費ハ六七留
七、六〇、〇〇〇尾ノ収獲 アル漁場ノ設備営業費ハ 約一五、三九七留	七、同上、七八五留
八、浦潮斯德マテノ製魚運 搬費ハ一布度ニ付二八哥	八、函館マテノ同上費ハ約 一〇哥

由是觀之日本漁業者ハ我漁業者ニ比シ遙ニ有利ノ地位ニ在リ、然リ而シテ千九百十年ニハ露国人ノ租借漁区数二十二ヶ処ニ対シ日本人ハ百二十七ヶ処ヲ有セリ斯ノ如キ情勢ハ現今尚ホ依然トシテ持續シ今ヤ日本漁業者ノ經濟的發展ハ実ニ驚嘆ニ値ス、千九百七年乃至千九百十一年ニ我沿岸ヨリ日本ニ輸出セラレタル魚類ノ数量ヲ見ルトキハ益々此感ヲ深フスヘシ即チ

ノ買魚価格ハ鱒一尾ニ付半哥、夏鮭一尾ニ付三哥半ト云フ安値ナリキ即チ之ヲ一布度ノ価格ニ換算セハ七哥乃至二十八哥ナリ鱒モ亦現ニ斯ノ如キ運命ニ在リ、然ルニ鱒ハ我露国人ノ必要食料品ノ一トモ称スヘキモノナレハ其需要高ハ実ニ莫大ノ額ニ達スサレハ外国ヨリノ輸入高ハ毎年平均約二千五百万留ノ臣額ニ上レリ斯ノ如キニ係ハラス我極東露領ニ於テハ年々数十万布度ノ鱒ヲ廉価ノ肥料トシテ日本ニ輸出シツ、アリ是レ甚シキ矛盾ニアラスヤ玆ニ於テ我商業會議所ハ前述ノ如ク鮭鱒ヲシテ七哥乃至二十八哥ノ廉価ヲ以テ又貴重ノ鱒ヲ肥料トシテ日本ニ輸出セシメサラシメ以テ戰時牛肉ノ欠乏スルコトアル場合ニ生又ハ塩蔵魚ヲ軍隊ニ供給スルコトヲ得セシメ又一方ニ南ハ浦潮斯德ヨリ北ハ「デジニョフ」岬ニ至ル広大ノ沿岸ニ於テ我労働者ニ稼業ヲ授ケシメンカ為メ左記数項ニ就キ政府当局ノ注意ヲ促サント欲ス

一、露国船舶ノ充実スルマテ自由ニ外国船舶ノ傭入ヲ我漁業者ニ許可スルコト但シ該許可ハ船舶業ニ最モ關係アル港務局ニ於テ傭入ノ都度之ヲ与フルコト

二、「オホック」堪察加「アナドキリ」各方面沿岸漁場

千九百七年	二、〇四三、四六〇布度
千九百八年	二、四五六、六五四布度
千九百九年	三、六三七、四三六布度
千九百十年	四、二九四、三四五布度
千九百十一年	六、三四九、二三七布度

然ルニ日本ニ於テハ右ノ如ク逐年魚類輸入高激增ノ結果市価暴落シテ千九百七年以來実ニ左ノ如キ相場ヲ示セリ

千九百七年	二留八十哥	二留十哥
千九百八年	二留四十哥	一留六十哥
千九百九年	一留八十哥	一留四十哥
千九百十年	一留十哥	八十哥
千九百十一年	一留四十哥	一留

魚価暴落ノ主因ハ固ヨリ供給過多ノ結果タルコト明ナリ玆ニ於テ日本買魚者ハ魚類購買価格ヲ引下クルニアラサレハ到底引合ハサルニ至リタルニヨリ露国漁業者ノ一致ヲ欠ケルト資金ニ窮乏セルトニ乘シ暗ニ申込価格ニ応セレハ断然買魚セサルカ如キ態度ヲ示シ遂ニ之ヲ著シク引下ケシメタリ例ヘハ千九百十一、二年ノ如キ「ニコラエウスク」市方面

行ノ直行汽船ヲ増加シ之ニ保護金ヲ交付スルコト

三、保護金ヲ受ケツ、アル船舶ノ現行運賃並ニ各種荷役

賃ヲ低減セシムルコト

四、汽船及發動機裝置ノ帆船ニ対シ国立銀行ヨリ資金ノ

貸出ヲナサシムルコト

五、沿海州、堪察加州及薩哈連州ノ漁業者ニ対シ国立銀

行ヨリ最低利ノ資金貸出ヲナサシムルコト

六、魚類、罐詰及魚卵製造ニ関シ經驗アル指導者ヲ養成

センカ為メ浦潮斯德「ニコラエウスク」両市ニ漁業学

校ヲ設立スルコト

此際急速右ノ事項ヲ実行セシムルニアラサレハ日本漁業者ト競争シ得サルハ固ヨリ我極東露領ノ最大富源タル漁業ヲシテ充分ニ發達セシムルコトハ到底之ヲ望ムヘカラス

(終リ)

二九九 五月十五日

在ニコラエウスク山口領事館事務代理ヨリ
加藤外務大臣宛

ニコラエウスク漁業区漁場労働者登録ニ関スル告示訳報ノ件

附屬書 右告示訳文

公信第四四号

(六月一日接受)

大正三年五月十五日

在ニコラエウスク

領事館事務代理 山口為太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

今般当ニコラエウスク漁業区漁業監視官ハ漁場労働者登録ニ関シ別紙訳文ノ如キ告示ヲ発シ本年同漁業区ニ於ケル官市有漁場ニ之ヲ施行スルコトヲ命シ候右ハ露国政府カ当漁業区ニ於テ数年来漸次外国労働者ノ使用ヲ禁止シタレトモ之レカ監視ノ方法不充ナルヨリ往々禁制ヲ犯スモノアリ特ニ朝鮮人ニ関シテハ旅券制度不備ナルニ乗シテ犯則ヲ取テスルモノ頻繁ナルヨリ是等不正行為防遏ヲ目的トシテ制定シタルモノト存候然ル処該告示ハ施行ノ地域及労働者ノ国籍ニ関シ除外ヲ設ケサルヲ以テ其規定ハ黒竜江海灣ニ於ケル我漁業者及労働者ニモ全部適用セララルコトト相成我当業者ノ被ル不便苦痛尠ナカラサルヲ慮リ候ニ付右適用ニ関シ手加減ナキヤ前記漁業監視官ノ内意ヲ窺ヒ候処同官ハ本邦人ニ対シテハ主ニ第一条乃至第四条ノ名簿及旅券ニ関

スル規定ヲ適用セントスル意嚮ナル由ニ候就テハ我出漁者ニ於テ右心得ノ上違犯行為ナキ様致度候間当漁業区ニ関係アル当業者ニ周知方可然御取計相成度別紙告示訳文相添ヘ此段申進候 敬具

(附屬書)

「ニコラエウスク」漁業区漁業監視官告示(訳文)

「ニコラエウスク」市千九百十四年四月二十二日第五

五七号

漁場労働者登録ニ関スル左ノ規則ハ沿黒竜江総督ノ認可及沿黒竜江国有財産管理庁ノ千九百十四年四月一日発電訓第六七〇一号ニ依リ官有及市有漁場租借者ニ於テ来ル漁期ニ之ヲ遵守スヘシ

第一条 漁業者ハ漁場ニ労働者名簿又ハ出入簿(様式ハ^{ドモリヤクシニガ}居留者出入簿ニ準ス)ヲ備置キ之ニ労働者ノ在籍地名、年齢、居住券発給官庁名及旅券又ハ之ニ代ルヘキ証書ヲ記入スヘシ

第二条 漁場ニ使用セラル、労働者ノ旅券ハ当該警察署ニ登録ノ後ハ之ヲ漁場事務所ニ備置クコトヲ要シ市ノ事務所ニ残置スルコトヲ得ス

第三条 第一条ノ労働者名簿ハ漁場ノ見易キ場所ニ出シ置

クカ若ハ漁業監視官吏及警察官吏ノ要求ニ依リ直ニ提示シ該官吏ヲシテ漁場事務所ニ備置キタル書類ニ依リ滞ナク之ヲ検査セシムルコトヲ要ス

第四条 租借条件ニ依リ露国臣民ノ朝鮮人又ハ黄色人種ニ属スル外国人ノ労働者ヲ使用シ得ル漁場ニ於テハ漁業者ハ該労働者ノ出入計算ノ為メニ本則第一条ニ定メタル様式ノ特別名簿ヲ備置キ之ニ該労働者ノ異動ヲ総テ記入シ漁業監視官吏ニ知ラシムルコトヲ要ス

第五条 労働者ノ一部ニ露国臣民ノ朝鮮人ヲ使用スル漁場ニ於テハ漁場租借者ハ該朝鮮人ニ胸部ニ佩用スヘキ記章ヲ支給シ該記章ニ名簿ト同一ノ番号ヲ付スルコトヲ要ス該記章ハ漁業者ノ費用ヲ以テ予メ注文シ「ニコラエウスク」漁業区漁業監視官ヨリ漁場ニ使用スル朝鮮人ノ労働者ノ届出員数ニ応シテ之ヲ下付ス

第六条 漁場ニ於テ前記ノ記章ヲ佩用セサル朝鮮人ヲ発見シタルトキハ該労働者ハ証書ノ検査ヲ行フコトナク外国人ト看做シ漁場租借者ハ現行黒竜江漁業仮規則(千九百

年十一月十三日認可)第二条及第三十四条ニ依リ外国労働者ノ届出員数ニ応シテ之ヲ下付ス

一一 極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業問題 二九九

労働者毎一人ニ付百留ノ罰金ヲ課セラルヘシ

第七条 漁場租借者又ハ管理人ハ漁場事務所ニ旅券ヲ備置カサルカ若ハ労働者名簿ヲ備置カサルトキハ工業法第五百四十二条ニ依リ二十五留乃至百留ノ罰金ニ処セラレ且刑法第二十九条ニ依リ処罰セラルヘシ

第八条 漁業者ハ名簿ノ外ニ労働者各個ノ計算ノ為メニ特別ノ帳簿ヲ備置キ労働者ニハ適當ノ帳簿ヲ支給スルコトヲ要ス

第九条 通帳ヲ有セサル労働者ヲ使用シタルカ又ハ不正ニ記帳シタルトキハ漁場租借者又ハ管理者ハ其都度五留乃至二十五留ノ罰金ニ処セラルヘシ(工業法第五百三十三条ニ依ル)数罪同時ニ発覚シタル場合ハ各罪ニ対スル罰金ノ総額ヲ科ス但総額ハ五百留ヲ超ユルコトナカルヘシ

第二条附則

「ニコラエウスク」市ノ上流ニ在ル官有漁場ニ関シテハ労働者ノ旅券ヲ警察署ニ登録スルコトヲ要セス

「ニコラエウスク」漁業区漁業監視官

「エム、アレクシン」

三〇〇 六月九日 在浦潮野村總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

露国国立銀行浦潮支店ノ漁業資金貸出拡張ニ

関スル件

公第一〇六号 (六月十九日接受)

大正三年六月九日

在浦潮斯德

總領事代理 野村基信 (印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

極東露領沿岸ノ漁業ハ今ヤ同地方産業中重要ノ地位ヲ占メ
居ルニ係ハラス露国人ノ経営ニ係ハルモノハ遅々トシテ旧
態ヲ持続シ殆ント日本人ノ為メニ庄倒セラレントスル有様
ナルカ是レ主トシテ露国漁業者ノ資金欠乏ニ基因スルモノ
ナリトテ現任沿黒竜江總督ハ着任以来鋭意当業者ニ右資金
供給ノ方法ヲ講シ以テ斯業ノ發展ニ努力スル所アリシカ其
結果露国国立銀行ハ一昨年以来魚貨ニ対シ小口ノ貸出ヲ開
始スルト同時ニ漁業ノ中心タル「ニコラエウスク」市ニモ
出張所ヲ設ケ次テ支店ヲ置クニ至レリ然レトモ當時貸付条
件頗ル嚴重ナリシヲ以テ漁業者ハ充分ニ之カ恩恵ニ浴スル

四、買魚者ヨリ受取リタル漁獲物前金ノ保証トシテ漁業者
カ振出シタル手形ノ割引ヲ為スコト

五、従来ハ大型船舶ニノミ貸出ヲ為シタルモ今後ハ小型船
舶ニ対シテモ鉄船又ハ木船ノ何レヲ問ハス五千留マテノ
貸出ヲ為シ得ルコト、セリ

右及報告候 敬具

三〇一 十月八日 在浦潮野村總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

露国漁業者ニ対スル国立銀行貸出方法ニ関ス

ル件

公第一八八号 (十月十六日接受)

大正三年十月八日

在浦潮斯德

總領事代理 野村基信

外務大臣男爵 加藤高明殿

露国漁業者ニ対スル露国々立銀行資金貸出拡張方ニ関シテ
ハ当地支店ニ於テ本店ニ建議スル処アリシカ同建議ハ本店
會議ノ結果遂ニ採用セラル、コト、ナリタル趣ハ本年六月
九日公第一〇六号ヲ以テ報告申進置候処今般当地ニ於ケル

コト能ハサリシヨリ總督ハ更ニ当地支店長ニ右資金貸出ヲ
一層拡張スルノ必要ヲ説キ本店ニ建議セシムル所アリシカ
同建議ハ今般同店會議ノ結果遂ニ採用セラレタレハ今後極
東ニ於ケル露領漁業者ハ資金融通上至大ノ便宜ヲ得ルニ至
レリ今貸出条件ノ從來ト異ナレル点並ニ貸出範圍ヲ摘記ス
レハ大要左ノ如シ

一、從來ハ露曆九月十五日ヨリ二月一日マテノ期間ニ普通
貨車ニテ輸送セラル、魚貨ニ対シテノミ貸出ヲ為シタル
モノ今後ハ右ノ外氷藏貨車又ハ冷藏船(海路經由歐露諸港
行)ニテ輸送セラル、魚貨ニ対シテモ時期ニ制限ナク貸
出ヲ為スコト、ナレリ

二、從來魚貨担保貸出ノ請求アルトキハ当地支店ニ於テハ
金額ノ多少ニ係ハラス其都度本店ノ許可ヲ求メ来リタレ
ハ其承諾ヲ得ルマテ少クモ二ヶ月ヲ要シ借用人ノ不便尠
ナカラサリシカ今後ハ五千留マテハ当地支店ニ於テ何時
タリトモ独断貸出ヲ為シ得ルコト、ナレリ

三、保存ノ設備ヲ充分ニ施シタル塩魚及庄搾魚卵ニ対シテ
ハ露曆九月ヨリ二月一日マテ最低市価ノ五割マテ貸出ス
コト、セリ

露国々立銀行支店ハ本件ニ関シ本店ヨリ確定的ノ指令ヲ受
ケ愈々実行スルコトニナリタリ其内容左ノ如シ

一、漁具及漁舎ヲ担保トシテ貸出ヲ行フコト

二、露曆九月十五日ヨリ二月四日ニ至ル期間運送状及船荷
証書担保ニテ貸付ヲナスノ外全部年ヲ通シ冷藏貨車ニテ
輸送ノ魚類並ニ冷藏庫内ニアル魚類ヲ担保トシテ貸出ヲ
行フコト

三、露曆九月十五日ヨリ一月三十一日ニ至ル期間塩魚及庄
搾魚卵漬ニシテ設備ヲ施シタル家屋内ニ保存シアル時ハ
之ヲ担保トシテ其市価ノ五割ヲ貸出スコト但シ其償却ハ
必ス一月三十一日迄ニ行ハサルヘカラス

四、新タニ鉄船、木船ヲ購入スルモノニ対シ貸出ヲ行フ
但シ必ス保險会社ノ保險アルモノニ限ル

五、浦潮支店割引貸出委員會ハ船舶一隻ヲ担保トシテ露貨
五千留迄貸出ニ付キ決定權ヲ有ス

六、漁業家カ其翌年ノ漁獲物ヲ前売シ其商人ヨリ受取リタ
ル前渡金ノ担保トシテ漁業家ノ振出シタル手形ヲ割引ス
ルコト

右報告申進候 敬具